

One Health シンポジウムと中高生との対話会

渡辺美代子

めっきり寒くなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。ついこの間まで暑い夏がいったいいつまで続くのか心配していましたが、秋を味わう時期が短く、あっという間に冬模様になってしまいました。この季節変化が激しい 10/31 に、ウッドデッキは北海道大学でヒトと動物と環境の健康を統合的に考える One Health のシンポジウムを開催し、翌日には中高生との対話会を行いました。

One Health シンポジウムには現地とオンライン合わせて 148 名の方が参加してくださいました。参加いただいた方、ご講演いただいた方、そして共催者としてシンポジウムの企画と運営にご尽力いただいた北海道大学獣医学研究院の方々に、お礼を申し上げます。講演者 6 人のうち 3 人が北海道の方、一人は米国ボストンからの参加でした。

釧路を拠点に活動されている猛禽類医学研究所代表で獣医師の斎藤慶輔さんには基調講演をしていただきました。再生可能エネルギーの代表である風力発電の風車がオオワシなど渡り鳥の死亡事故を招いていることなど、人間生活にとってよいと思われることが動物に被害をもたらしている事実を、写真を示しながらご説明いただきました。このほか、獣医学、生態学、保健学、感染症疫学、海洋環境学、そして微生物の装置開発を専門とする多彩な専門家による講演がありました。アフリカやアジアでは想像を絶する不衛生な水を用いた生活や鉛汚染が日常化している危険な生活の改善の取組みや、抗生剤の大半が家畜用に使われている健康格差の問題、One Health では話題にならないことが多い海の生物と人間生活の関係、微生物の検出から見えてくる人の都合による社会の問題など、私たちの生活がいかに未知の脅威に囲まれているかを知る機会となりました。そして、1つの専門にこだわらず学際的で総合的な観点から問題を把握し、包括的な解決策を見出すことの重要性を認識しました。

シンポジウム後の参加者アンケートでは、基調講演に全員が満足し、講演にも 9 割が満足、パネル討論は時間が短かったこともあり 7-8 割が満足という結果になりました。これらのご意見からは、質疑応答など講演者と参加者との対話を増やす課題が示されました。これから、学際的で総合的な視点を多くの方と共有できるようなシンポジウムを企画していきます。

翌日の対話会は、札幌市の隣の江別市にある立命館慶祥中学校・高等学校でたくさんの生徒たちと対話をしました。午前中は中学 3 年生約 180 人とウッドデッキメンバー 10 人が 6 つのグループに分かれて、「世界に通用する 18 才を考える～大学の学び、研究の醍醐味～」をテーマに議論しました。将来の夢に迷い悩んでいる多くの生徒たちは、まだ確固たる夢が決まらないことになんら問題ないと勇気づけられ、生き方や将来について新しい考え方に触れたと感想を話してくれました。

午後は高校 2 年生約 40 人とウッドデッキメンバーが 8 つのグループに分かれて、「挑戦をもっと自由に～私はこんなことがしたいんです～」をテーマに少人数で和気あいあいと笑い声を交えながら話し合いました。生徒自身の将来、海外経験や戦争の意味など、グルー

プによってさまざまな議論がされました。

中学生と高校生との対話を通して、中3と高2のたった2年の年齢差が悩める子どもの時期から大人の入り口に足を踏み出す時期へと大きな変化をもたらすことに、驚きを隠せませんでした。体の成長だけでなく、心の成長も大きく、この時期に多様な人々と触れ合い、対話することの意味を実感しました。今回の対話会は立命館慶祥中学・高校の先生方がウッドデッキメンバーとの対話会を貴重な機会と捉えてくださり、熱心に企画し、準備してくださったために、充実した内容となりました。これからも、このような熱心な先生が協力してくださる中学や高校とともに、有意義な対話会を企画し、中高生の意見に耳を傾けながら私たちとZ世代の相互理解を深めていきます。



北大でのシンポジウム集合写真



立命館慶祥中学校・高等学校での中学生との全体集会